

会 議 録

件 名	紀見北中学校区地域説明会・意見交換会（第2回）
日 時	令和7年2月14日（金）午後7時00分から午後9時30分まで
場 所	紀見北公民館2階研修室
参加者	参加者 51名 今田教育長、田中委員、簗下委員、岡教育部長、阪口参事、 丸山教育総務課長、東学校再編推進係長、東川、中山

教育長挨拶、資料説明の後、質疑応答、意見交換になりました。

なお、出席した住民には、資料と合わせて、意見等を記入できる二次元コードを用意しました。

本説明で出された意見等は、以下のとおりです。

1. 最初から3回ぐらい、こういう会合に出たんですけど、今回、また再配置の説明会があるので再配置の案が変わっているのかと思いましたが、結果的に何ら変わってないなど、ちょっとがっかりしたんです。境原小学校と城山小学校については5年ほど伸びている。柱本小学校については、頑なにそのまま。ぱっと見てですよ、数値的に存じ上げないけれど、境原小学校と小峰台を見かけた範囲では柱本小学校よりかなり小規模に見える。そして、ご説明の中にあつたような教育上の問題とか、もっと抱えているんじゃないかと思うんですね。そこを延ばした理由は何なのか。資料にこれが記載してあればいいけど、柱本小学校と三石小学校の分しかないので、何か理由があるのかちょっと知りたい。

（教育委員会）

ご意見ありがとうございます。まず、境原小学校は紀見東中学校になるんですけども、今回、目標年度を見直した主な理由は、境原小学校の東側斜面の土砂災害対策を行わない方針で、昨年説明させてもらったんですけど、市が災害対策を行うという方向転換によりまして、そこが一番の大きな違いです。危険を回避するということで、城山小学校に移っていただきたいという説明だったんですけども、対策をするということで児童数のことも含めて5年延びる形になりました。それに対して、紀見北中学校区の柱本小学校と三石小学校の目標年度が変わってないじゃないかということなんですけど、これは説明の中に、令和11年度に柱本小学校が1桁の人数になるという推計があつたと思うんです。去年、今年にかけて、この紀見北中学校区の出生数を見たら2桁になっていないんです。そうすると、学校というのは、やはり一定のクラス規模、学校規模で運営することが子供たちに、よりよい学習環境というふうに考え方を持っています。子供が急激に減っている。減ってから動いても遅いので、我々としたら、11年度を目標に再編をさせていただきたいということで、検討はしたんですけども、結果的に11年度という形にしている次第です。

児童数の推移について、補足をちょっとさせていただきます。紀見北中学校区において、現在、柱本小学校は、学校全体でこの人数になっているんですけども、先ほど説明した中で、令和11年度以降は1桁の人数に予想されているということです。転出入があるので、正確な数字はわからないところですが、現在の児童数を踏まえたと、令和11年度の新入生は9名。令和12年度には6名という予想になっています。現在、学校のルールで2学年を合わせて16人以下というふうになりますと、2つの学年が、合同で1人の先生で授業を行うという複式学級と呼ぶんですけども、そういったクラスになるということで、こちらの子たちが2年3年になる段階で、複式学級というところが見込まれているような状況になります。

2. 初めて来させていただきました。説明会とかはつきり知らなかったんですけども、柱本小学校が統合される方になるのに、説明会の場所も来にくいところで、柱本小学校でしていただくかと思ったんですけど、時間も夜で、子供のいる家庭は来にくいかなという時間でもあったと思うんです。柱本小学校が三石小学校に統合的になるのは、説明を聞いて仕方がないのかなとは思いますが、人口が減る、子供が減ることを前提に、増やすことは教育委員会関係ないのかもしれないんですけども、前に市長の説明でも、橋本は人口が増えることは今後望めないということを前提に、すべて施策を立てているような気がするんですね。柱本小学校区は、今から代替わりもあって、新しく子育て世帯が引っ越してくるのに非常にいい立地条件だと思うんです。トンネルもできましたしね。実際、三石台に比べてすごく安い。だから、若い人は引っ越して来やすいところだと思うんです。若い人が住みやすい。坂なので、私たちはこれから住みにくくはなるんですけど、若い人が住みやすい街だと思うんです。その辺りを考えていただいて、学校がなくなったら、そういう世帯の人は引っ越してくることとか考えないかなというのもある。私はこちらに16年前に紀見ヶ丘に越してきたんですけども、息子たちも10年前に引っ越してきました。来てくれたんですけど、私はそのときに、柱本小学校がなくなるのか、すごく不安で問い合わせましたら、そういう話は一切ないです。10年前の段階ではということだったんです。それで安心をされていて、やっぱり学校は、子育て世代がすごく大事なんですよね。引っ越してくるものの第1条件なんですね。その辺りのことを考えて、11年に統合という案をぱっと打ち出されたら、今後、引っ越してくることを考えてくれないなというのが、若い世代が紀見ヶ丘に来ない。来なくなるというのがすごく不安なんです。その辺りも教育委員会だけじゃなくて、橋本市としてもっと考えていただけないのか。子育て世代の若い人たちが引っ越してくれるまちに、橋本はすごくいい街だと思っててこんなに通勤にも便利なおところは。それが、どうしてもっと増えないのか。私が引っ越してきて、どんどん減っていったら、何か寂れていくというのをすごく実感しているんです。学校だけのことじゃなくて、そのあたりのことも一緒に考えていただきたいなと思うんです。

(教育委員会)

ご意見ありがとうございます。まず1点目の説明の場所が来にくいところということだったんですけど、地元でも考えさせてもらったんですけど、正直申し上げて空調効いてるところでさせてもらいたかったんです。体育館でこの時期に開催すると、寒くて参加いただける方に凍えながら説明を聞いてもらうのはと思い、申し訳ないんですけど公民館をお借りしてさせてもらいたいというのが理由でした。

若い世帯が引っ越してくるようというということでお話いただいて、10年前にそういう話なかったということなんですけど、10年前は確かにこの方針ございました。今日はお出しすることはなかったんですけど、橋本市内の小学生の数が、この10年間で21%減少しているんです。今後このペースでもっと加速度的に子供の出生数が落ちたときに、学校の運営というところを考えたら、再編はした方が子供たちに良い環境ができるという方針を聞いてもらっている次第なんです。当然、私らだけじゃなく、市として若い人が住んでもらえるような考え方は当然必要で、別の部署になるんですけども子供の医療費であったり、定住促進という取組を全体でしているんです。特に紀見北中学校区は、三石台ですら伸び悩んでる出生数なんで、こういった環境を考えさせてもらっているということでご理解いただけたらありがたいです。

3. 僕も今日初めてなんです。1回目でどういう話があったかは大体想像できるんですけど、ここにいらっしゃる方は、僕も含めてお年を召した方ばかりなんですよ。一番その教育のことにに関して関心のあるのは、やっぱり若い世代子育ての親御さんたちなんですよ。ただ、親御さんたちを抜きにして、老人ばかりで話しても意味がないと思うんですよ。学校教育がこういう学校を作りたいと、例えば、文科省の下で、教育委員会があって、教育委員会の指定で学校の教育の方針も決まるわけですから、新しい学校方針は、教育委員会の方たちがプロですから独自に作ってやればもう全然問題がないと思います。難しいのは、学校と学校とがどういうふうに良い形で合併するかというお話なんだと思うんですね。その話は、やっぱり当事者抜きで話をしてるのかなと思うんですよ、このメンバーを見ると。やっぱり当事者たちは日曜日しか時間取れないと思うんですね。この意見は多分、堂々めぐりになるのかなと思います。ですから3回目以降は、お子さんを持つてる当事者の方が集まりやすい、土、日曜日に会場を変えて、小学校のお子さんたちの親御さんのお話をちゃんと聞いて欲しいんです。でないと話し合いをしても、3回目以降変わったことがあるかというあまり変わらないと思います。もう1つセットにして考えて欲しいのは、廃校になった学校どう活用するか。皆さんが考えておられるのはそのことだと思います。だから、それはセットで話をしないと多分難しいのかなと思います。だから、柱本のいいところ、三石のいいところは、やっぱり立地のことを考える。住民のことも考える。教育、もちろん教育のことがメインですけど、それを考えた上でのセットの話かなと。だから教育のお話をされても、多分、教育は教育に任したらいいと思います。基本的に。だから、今後の

展開をどうするかを、市の方たちも含めてセットでお話をしないと、知らない間にこっちで統合したわというようなお話になってしまうのかなという、ちょっと気はしています。例えば、三石台だったら駅近く、立地もいい、人も集まりやすい。例えば、小学校の活用方法もまだあるわけですね。体育館はどっちも潰すわけにはいかないから、避難所でもあるし、何かのときの対策もあるわけですから。でも柱本はこども園も新しくできるし、岡潔数学体験館もあるし、やっぱり教育機関として魅力的な部分もあると思うんですよ。やっぱりその辺は、ここに市の方もちゃんとおられて、皆さんの意見を吸い取られたらどうかと思います。

(教育委員会)

今日の地域説明会は、紀見北中学校区の地域の皆さんに開催させてもらってるんですけど、先に保護者説明会を開催させてもらいました。土、日のお昼の時間帯で、柱本小学校と三石小学校の保護者さんの合同説明会を、2月1日の土曜日にさせてもらいました。まだ小学校にお子さん預けていない保育園、こども園に預けている未就学の保護者さん向けの説明会も、日を改めて日曜日に開催するということで分けています。そして、廃校の話セットにしたかどうかというところなんですけど、今日は学校再編ということで、こういった方針を教育委員会で考えてますというのを、聞いていただいたんですけど、当然、廃校の話が出てきますんで、それは市の計画を決定し、地元の意見も聞きながら一緒に考えていかせてもらいたいと考えています。

4-1. 今日初めて出席させていただいてるんですね。私の前に紀見ヶ丘の方お1人と、柱本の方お1人のお話をそれぞれ納得しながら聞いてたんです。先ほど表を出していただいたのは、住んでる方の出生数から推測した推計で、クラス数とか人数とかということなんですけども、ここの文章の中に橋本市では0歳から9歳については転入が超過していると書かれているんですよ。ということは、先ほどもおっしゃいましたように、紀見ヶ丘は三石台に比べると入居しやすい価格帯なんです。ということで、ひょっとすると人数が増加するかもわからないじゃないですか。それを今、決定していくんですか。それと、やはりもう無くなった時、廃校になった時のこともおっしゃってございましたけれども、廃校云々じゃなくて、一度廃校してしまったら、逆に縁があつて紀見ヶ丘の人数なり、柱本や光陽台の人数が増えたらどうなるんですか。ここにこう書かれていますよね。0歳から9歳については転入が超過してますって。おっしゃってる意味がちょっと理解できないんですよ。出世数は確かに減ってるのかもわかりませんが、でも増える可能性もあるということですよ。それを簡単に1回か2回の説明会で、教育委員会が決定したからそれに従いますということに、この市はなっていくんですか。やっぱりご検討し直していただきたいなと思います。

(教育委員会)

ご意見ありがとうございます。資料28ページです。市の人口減少対策として3つの重点プロジェクトを行っています。この中で、橋本市でプラスに動いているのが、このファミリ

一層の増加のところですよ。これについては、様々な子育て支援策を講じているところで、超過になっているんですけども、そのあとに、実は20歳から35歳ぐらいまでの転出超過が著しく起こっています。つまり、転出超過の抑制というところで、これから就職をして、もしくは大学へ進学をされる方々、この若い世代が、本当に転出超過をしています。その方たちが結婚して、子育てをされていく世代になりますので、①の出生数の改善というところ、橋本市の現在のデータが2018年ぐらいのデータかなと思うんですけども、合計特殊出生率が和歌山県内でも一番低いということの統計が出ています。そういうことから、何とか子育て世代のファミリー層が転入してきているんだから、何とか転出超過を抑制しようということで、働く場所を作っていくということで企業誘致等にも力を入れていってるところなんです。どうしても出生数については非常に少ないというところで、このファミリー層がせっかく転入者が増えてきている部分が、若干帳消しになってしまっているというところを何とか改善しようというところに取り組んでいるところなんです。そういう事情の中で、現在の努力はしている中でも、先ほど、児童数の推計のところを見ていただいたと思うんですけども、やはり減少というのがなかなか途切れない。何とか傾斜を緩やかにしていく努力はしてるんですけども、そのところについては、なかなか歯止めが効かない部分がありまして、そうなってくると、先ほどから申し上げてます一定規模の集団を確保した教育を子供たちに受けていただきたい。そういう思いがありまして、今回の再編統合の案ということで、ご提案をさせていただいてるという状況ですので、ご理解いただけたらと思っています。

4-2. 紀見ヶ丘は若い世代が転入しやすい場所だと思うんです。学校をなくしてしまうと紀見ヶ丘には来ないと思うんですよ。そのあたりを考えられて決めたことなのかということをごく聞きたかったんです。橋本市の中で、私は紀見ヶ丘が一番若い世代を呼びやすい場所だと思うんですね。それを考えていただけたのかということをお聞きたかったんですけども。先ほどから言われてる、そのファミリー層の転入促進とか言われているけれども、紀見ヶ丘は、そのとおりになってないと思うんです。紀見ヶ丘は切り捨てたと思うんですけどね。それじゃ、本当に紀見ヶ丘に転入してくれないと思うんです。その辺りのことをお聞きしたかったんです。

5. 私はもう36年前に紀見ヶ丘に引っ越してきました。その時に一番に子供のこと考えたら、幼稚園あります、小学校あります、中学あります。それでハウスメーカーと契約しました。私たちは家だけ建ってもいけないんです。子供がのびのびと、空気のいい橋本に引っ越してきたんです。その時に木造の柱本小学校は、トンネルの左の電柱が建っているところで、変な言い方でトイレも水洗じゃなかったんです。子供がもう怖がって、我慢して走って帰ってきたんです。そこで何か月後に柱本小学校はできます。みんな土日、鍬を持ったことのない街の人間が奉仕活動をしたんです。そして柱本小学校にみんな入ったんです。

そしたら、娘が4年か5年のときにマンモス校になったんです。プレハブ建ったんですよ。そんなこともわからなかったんですか。わかるはずでしょう教育委員会は。プレハブで、夏の暑い時も、扇風機だけで暮らしたんです。そういう娘が、どうして橋本に住居を置こうと思いますか。出ていきます。会社がないんですから。大学に行っても会社がないんです。働くところないのに居れないんですよ。そういうことも、平木市長は誘致言われても、なかなか誘致してませんよね。そういうことも踏まえて、紀見ヶ丘は4月にこども園が建ちます。紀見ヶ丘のこども園の子たちが、小学校廃校してバス乗っていくんですか、小学校1年生の子が。このお母さんはみんな勤めてるんです、こういう世の中だから。どうして1年生の子をバス乗せるんですか。それ考えてください。私たちはもう年取ってます。子供も孫も今ここにおりません。でも、この紀見ヶ丘を死の街にしないでください。トンネルできた。それなのにどうして紀見ヶ丘、光陽台素晴らしいまちですよ。どうして三石台なんですか。おかしいと思いません。本当にもう少し考えてください。

6. 紀見ヶ丘と三石台は同じ立場なので、紀見ヶ丘を押せば三石台が、三石台を押せば紀見ヶ丘なんで、そういう住民の対立になるような話をしたら駄目です。それで住民なんですけども、10数年前に統合で、5小学校を2つにまとめた、ある町で小学校教員として働いています。お願いしたいんじゃないけども、三石小になるにせよ柱本小にせよ、統合するのは、これもやむなしと思ってます。これはもう今の事情で、どちらかが再編されるのはもう当然やと思うんですけどもね。ただ、いてる子供のことを優先して考えて欲しいなと思うんです。例えば、スクールバスの運行と言うても、紀見ヶ丘や柱本小の子供が全員乗れるようにしてもらえるのかどうか、或いは逆に三石小の子供が全員乗れるのか。例えば2kmに基準が変わったんですけど、コンパス引いたら、やっぱ全部覆ってないんですよ。だから、道1本隔ててバス乗れる子と、45分歩く子が出てくるので、できたらその校区の子供どちらになっても、全員が安全にスクールバスで通えるようにして欲しいという要望なんです。ただ、スクールバスで運行してる学校もたくさんあるんですけども、今、バスの営業とかがかなり経営が苦しいので、バス会社がどんどん撤退するので、新規でバス運営してくれるところは、橋本はわかりませんがほぼないんです。ですから、鳴り物入りでスクールバスを運行しますと言うた都市が、実はもうバスがないので、また徒歩にみたいな形で子供にしわ寄せがいつてるところがあるということと、結局、コストの問題で2つの学校を維持するのはお金かかるんで、1つにまとめる。それで、教員の数も減りますのでね。先生方の人件費も減るんで、統合がすごく合理的に思うんですけども、最終的にバスとか、いろんなこと、運営とか含めたら、結局、再編統合する前よりも、お金がかかって頓挫した自治体もありますんでね。いろんなその自治体の失敗とか、成功とかをちゃんと情報共有してもらって、この地域で一番いい形で、何よりも居てる子供たちが安全に通えること。それからもう1つは、クラスを維持するのはすごくこだわっておりますけども、教員の立場でしたら、1クラス2クラスの維持よりも1人の先生が見れる子供が少ない方がいいんです。

統合して、一時的に2クラスになったとしても、いずれ1クラスになって、1クラスの人数が膨れ上がるんです。今、四苦八苦してる状態です。だから、再編統合した後でも、必ずまた1クラスの時代がやってくるんで、そういうのも含めていろんなものを考えて、スクールバスなんかもちやんと事業として成り立つことがわかってからの再編統合と思うんです。今はそれは全部なしで、やりますという形だけで、実際には目標年度が決まってるのは変な話やなど、ほんまは条件が全部そろってからGOやと思うんです。あと街の資産価値とかいろんなことについては、これは基本的には、個人的なことは二の次で、やっぱり今いる子供、これから先におる子供がきちっと学校生活を送れるという、通学も含めて、それを一番の柱にしておいて欲しいなと思います。

(教育委員会)

ご質問ありがとうございます。バスの件なんですけども、基準には2kmという形にしています。それでコンパスでという話ありましたけども、一定のエリアの方で基準を考えさせていただいて、スパッと切るような形よりは、一定のエリアごとに考えていくような形を考えています。バスの方ですけど、確かに紀見ヶ丘の方でしたら路線バスも走っていますので、そういったことも活用しながら、安全に乗れるようなことを考えながら進めていきたいと思っています。

7. ちょっとお聞きしたいんですけれど、さっき0歳から9歳について転入が超過しているということなんですけれど、その来こられた方たちは、橋本市のどういう点が良くて来られたのか、その辺のことはわかってるんでしょうか。これから増やすためにはそういうことを知るのが大事だと思うんですけれど。

(教育委員会)

ありがとうございます。例えば、定住とか移住とかでこられる方にお聞きしますと、自然がたくさんあって、豊かだからというのが一番大きな理由で来られていると感じています。

8. ちょっと変わった意見になるかも知れないんですけども、実際、教育で人数だけで決めてしまっている。私は柱本小学校の卒業生ですし、岡潔が卒業した学校です。ところが廃校になる。こんな悲しいことはありません。私は、1人でも在校生がいる限り、学校は残していくべきだと思います。全国の人がみんなそう思ってると思います。自分のふるさと、この中にはたくさんのふるさとを持っておられる方、すべてみんなが持ってると思います。その中で、本当に自分のふるさとの学校が無くなる。こんな悲しいことはないと思います。教育の人数によって、人数が少ないから、学力が落ちるとか、上がるとかいう問題じゃないと思うんですよ。教育はそんなもんじゃなしに、やっぱり私たちの高校の時代は、50人学級でした。今40人、35人そういう学校になってます。それと、これから昨日一昨日からのニュースでも言うてますように、今後、無償化します。そんなことするんだったら、逆に、各地域の学校を残していくような方向づけの方が本当は大事ではないかなと思うんです。

それで、一人一人、本当に教育をして、日本人としての子を育てていくというのが大事じゃないかなと思うんです。それからそういう教育を人数が駄目だから、そんな人数だけで決めていくような教育というのは変えていってもらわないかなと思います。それやから誰が悪いんかわかりませんけども、そういう点においては、もっと皆が考えて、岡潔が言った、考えることは一番大事だと。ただ何も考えらんと、やっとりんじゃ駄目だということを私は発言したいと思います。そういうことで、みんなが考えて、本当に1人になっても残す学校、残して欲しいと思います。

9. こちらには柱本地区のたくさんの方、光陽台の方、それ以外の方も来られているんじゃないかなと、柱本小学校に行ってはる方の親御さんだと思います。こちらの方に来まして、大体34年になるんですけども、すごくいい街、いいところに引っ越してきたというのが私の実感なんです。団塊の世代で、多分、僕以下の年の方が子供さんをたくさん育ててきて、もう1クラス40人も50人もあるような学級になってたと思うんですけども、いずれ私たちは消える存在になると思います。しかし、だからといって、人が増えるわけでもないと思うんですけども、紀見ヶ丘1000戸ぐらいあります。そのうち3分の1でも、新しい人が入ってくる。また二世が入ってくる。そうなってくると、また若いファミリーが入ってくる。それ以外の方も入ってくる。空き家にするのももったいない。何が言いたいかわかりましたら、市がね、もっと教育委員会の方にもどうかなと思うんですけども、やはり市も県も一緒になって、いろんな形で橋本の市に来てくれる行政にしていかないと、子供は増えないと思います。赤ちゃんなんて、私たちが産めるわけじゃないですよ。来てもらわないと若い人に。だからそういう魅力のある町ですよということを、どうか、行政挙げて、教育委員会もそうですけども、みんなで相談しながら、いい街に作っていきたいと思いますよね。僕はもうそっちの方に力を入れて、もう皆さん、僕が思っていること言ってくれましたんでね。例えば、紀見ヶ丘、空き家できました。不動産屋、走ってくれ、若い人来るんか、どうぞどうぞ、市と一緒に申請する。こういう子育ての世代の人、どうぞ入ってください、いろんなことで協力してくれたらもっともいい、小学校移さんでよかった、廃校にせんでよかったなという、そういうことがきっと来ると思いますんで、そういうことも考えながら、廃校はもう少し、僕の考えでは延ばして欲しいんですけども。まず、そういうそういうところも考えながら、大きな枠の中で動いて欲しいなと、それが僕の望みです。

(教育委員会)

ありがとうございます。市では宣伝といいましょうか、人に来ていただけるようにシティプロモーションという形で取り組んでいます。担当部署は大阪や東京に行って、橋本に来てくださいという宣言をずっとしていますので、そういった活動を通して、橋本に来ていただく人が増えれば、市を挙げて取り組んでいけたらと思いますのでよろしくお願いします。

10. 私も先ほどおっしゃった方と同じ考えで、紀見北地区にもっともっと人を入れ込んで、我々の地区の魅力を発信して、どんどん来てもらうという運動を有志でやってるわけなんです。前回のときに質問したと思うんですけども、まちづくりをしようとしているものにとって、かなりきつい提案になってます。というのが1つは、柱本小学校の児童たちの通学の関係です。非常に高低差の高いところ、国道が通ってる。それを越えてこなくちゃいけない。そういった問題とか。紀見北中学校は、今の提案であれば統合された三石小学校、いわゆる中学校区の小学校は1つなんですね。これについて、意見交換会でも言わせてもらったんですけど、その辺りどう考えてるのが1つの不安です。日本でいろいろと話題になってるのは、子育てしやすいまちというのにどんどん人が来てる。子育ての中には、教育が入ってると思います。そうであれば、柱本小学校無くなった場合、例えばですよ、無くなって欲しくないけど、無くなった場合、誰が来ますか。こんなこと言ったらあれだけど、もうちょっと考えて欲しいというのは、これから紀見北地区にどんどん人を呼び込もうという運動してる者にとっては、そのあたりが不満です。教育委員会さんのご努力はもう十分承知してるんですけども、その部分で特に紀見北中学校区イコール1つの小学校、これについては、いかがなのかなとも思いますし、高低差のある国道も越えていく、行かなくちゃいけないところへ子供たちを通わせる。かなりこれは負担をかけるわけですから、そのあたりどう考えていらっしゃるのか教えていただきたいと思います。

(教育委員会)

ご意見ありがとうございます。確かに紀見ヶ丘を1つ例に挙げますと、慶賀野に下って平坦、また上がるということになります。そこは先ほどからのスクールバスのことをお話したんですけど、例えば、路線バスを活用してドアツードアはできませんけども、通学の支援というのを併行して考えています。今日、どちらかと言えば、この学校再編という教育委員会のお話をさせてもらってるより、何か柱本小学校を残すか残さないかの議論にちょっと入りかけているところもあるんですけど、保護者説明会をさせてもらい、未就学の保護者さんの説明会をさせてもらって、またいろんな意見を聞かせてもらっている中では、学校再編を今よりも早く進めて欲しいとか、より良い学習環境であれば、そちらの方に進んで欲しいという保護者さんの意見もあるんです。ですから、まちづくりを主語にしまうと、どうしてもこういう観点になるんですけども、子供たちの学習環境を主語にすると、この少子化は避けられない。幾ら頑張っても子供の減少が避けられなかったら、子供の環境を今よりも良くしようと思ったら、一定の時期に方針を出させてもらって、再編を考えていくべきじゃないかというのはあります。それから紀見北中学校区は1つの小学校になってしまいますので、今、2期の10年間の方針でいるんですけども、例えば、この期間中に減りそうだったら、この10年先のことを3期という形で考えていく方向になると思います。今はまだ学校は全て残っていますので、年度をずらして再編案を出していますけども、もっと子供の数が減ったりするならば、もっと先のことを、そのときまた考えていく流れになります。

11. ちょっと私は少し違った視点で、問題提起をさせてもらいたいと思ってます。私は生まれたところがこちらから山2つ越えた吉原新田というところで生まれました。昭和32年当時、小学校は3年生まで分校という形をとっておりました。4年生から山田小学校本校というところに入りまして、その後山田中学校に進んでいったんです。私は非常に成績が悪くて、小学校3年生ぐらいまでは、いわゆる足し算引き算というのが全く理解できない子供でした。随分、親や教師の皆さんにご苦勞をかけたのかなあとと思いますけれども、少し考えていただきたいのは、人というのは学校の授業だけで成長していくものなのでしょうか。例えばクラスの仲間でありますとか、そういった方々との間で成長していく部分というのもあるかと思います。それから、私が巣立った学校は、残念ながら全部消えてなくなってしまっております。そう言ったことを、例えば子供さんが大きくなったときに、ここは、子供さんが大きくなって、その子供さんを連れて、私が学んだ学校なんだということを紹介できるような環境と言うのも、次の世代につなぐという観点も持っていただく必要があるのではないかと思います。もう1つ考えていただきたいのは、学習ということに関してなんですけれども、これは、私個人の考え方になるんですけれども、例えば算数ですと、1足す1が2という数式がありますよね。小学校1年生の頃に、1足す1というのはちょっと見方を変えれば、4本の棒の組み合わせですよ。4本の棒の組み合わせがなぜ2という模様になるのかというのが全くわからなくて。それにさらに1を足すと3という更にわけのわからない模様になる。更に1を足すと、今度は3本の棒の組み合わせになるという物事の理解の仕方を、どうやらしていたみたいです。ですので、それはちょっと違うものだということが理解できるのが、小学校4年生というふうになりますので。同じスピードです、子供さんというのは学んでいくわけではありませんので、ここで1つ考えていただきたいのは、先ほど複式の話もありましたけれども、複式に関しては、賛否両論当然あるかというふうに思います。先日、私の妻と高校生時代の思い出話をしてたときがあったんですけれども、そこで私は複式の経験がないんですけれども、妻も小中高も複式ではなかったようです。高校に入るときに、複式のところから進学してこられた子供さんと一緒になるわけです。総じて、複式で学んでこられた生徒さんの方が成績がよかったという話を聞きました。私はそれを聞いて、それはありえるかもしれないなというふうに思ったんです。これは、私も職場で、先輩とか上司とかいう立場になったことがありますけれども、誰かにもものを尋ねるという立場と、それから、誰かにもものを教えるという立場というのはですね、これはかなり、同じ理解の仕方でも物事が変わってくるように思います。どうすれば理解してくれるのかということを考えなければ、伝えることができないというのが現実の世界になりますのでね。そういう中で、子供さんが育つ環境というのがあったとしたら、この隣にいる子供さんから、例えば3掛ける5はどう考えたらええんやという質問をされたときにですね、それをどうしたらいいのかというのを、1年先輩の子は考えなくちゃいけないんですね。それが非常に大きな、教育の世界では中身になっていこうかというふうに思います。もちろんデメリットもありますので、あまり簡単にはいかないとは思

ますけれども。それとちょっと長くなって申し訳ないんですけども、いずれ廃校と言う選択肢も当然あるかと思えます。ただ、廃校するにあたって、全て無くしてしまうという考え方はちょっといかがなものかなと思ひまして、自分が卒業した学校のことを思い出しまして、せめて教室1つ残しておいて欲しかったなと思うわけです。できましたら、先ほどから、地区のいいところのお話を皆さんおっしゃっておいりましたけれども、自然豊かで緑が多くてということが述べられておりました。できれば校舎の内側、教室の1つだけ残すにしても、校舎の内側は木で囲ってあげて欲しいなと。机も、木で作ってあげて欲しいなと思ひます。コンクリート、モルタル、石膏ボードで囲まれた教室よりも木で囲まれた、或いは床も木で作られた教室の方が、岡潔先生がおっしゃる情緒という言葉の中にそういう意味も含まれているのではないかと私は勝手に思ってるんですけどもね。ただ、教室があって、教師がいて、生徒がいるという関係は大切ですけれども、自分の身の周りにあるものが、誰かが作ってくれたものだということがわかる環境というのを少し考えていただいて、もう少し時間をかけて地域の皆さんと議論をしていただいて、よりよい方向を見つけ出していただきたいと思っております。

(教育長)

ありがとうございます。今のお話、全体をとおしてなんですけれども、子供は、ただ単に教室でやる授業の中で、いろんなことを身につけていくのではなく、子供たちの周りにある環境から学ぶことは多いですよと、いろんな例を挙げながらお話していただいたかなと思ひます。私はそのとおりだと思います。特に小さい子供たちは、保育園、こども園へ行ってる子供たちはどんなふうにして学ぶか、そこには保育室あります、保育室にあるおもちゃ、机もあります。そこに居てる先生、関わってくれる方々。やっぱり、そんな人と接したり触ったりすることによって、いろんなことをこう学んでいくんです。特に小さい子は積極的に主体的にそのものに働きかけていきます。これ学びの原点です。自分から働きかけるんですよ。そしたら、いろんなものはリアクションとして受けます。その中で学べることもたくさんあります。例えば、隣にある子をポンとやってしまった。その子が泣いてしまった。そしたらそこで何を学ぶか、こんなんしたら嫌がるということを学ぶんですよ。並んで順番守らないとあかんよというようなこともそうです。ですから、保育園、幼稚園、こども園の先生方は、何をもって、その環境を作ってるかって言ったら、計画的に場を作ってくれてるんです。そして、その中で集団で学べるような配慮をしています。小学校に入ってもやっぱりそのような環境から学ぶということがすごく大事な部分があります。ただ、それだけではない。何人が寄って、これからいろんなことを協働的に学んでいかなければいけない力も必要になってきます。初めに言った部分は、非認知能力というようなことを聞いたことないですか。今子供たちにすごく大切にされてあげて欲しいと言われてる力です。そんなことというのは、そういう環境の面から受ける、学ぶ、取り入れることが多いです。プラスアルファそこに認知能力、これはもう理屈っぽい話ですが、その中で学んでいくことも大事なことです。この両方がやっぱり大事なんですよ。そのためには、一定の集団を確保することが大事で

す。そして、少ない人数でもと話していただきました。特に小さいときは、大勢の人数よりは少ない人数の方が対応しやすいのがあります。ですから幾ら、複数のクラスになっても、そして、1つの学級が多くなったとしても、下の学年であれば、複数の先生を市単独の事業として配置して丁寧に対応していく。そんなことは、今も行っていますが、これからやっていく再編の中でもしっかり大事にしていきたい柱の1つに入れています。だからそういう両面を得られる環境を作ってあげたいというのが私たちの思いです。先ほどの発言された方で、子供を中心にと言ってくれた方がおられました。私たちも教育委員会ですから、子供を中心と考えたときに、やっぱりこういうことを大事にしたいんだ、そして、皆さんのご意見をいただきながら、私たちの教育委員会の中では、まちづくりは中心のところにはなっていないんだけど、そんなことも考えながら、市と一緒にそのところは進めていかなければならないと思っています。けれども、全く教育委員会がまちづくりにかかわらないかといったら、そうではないと私自身は思っています。積極的ではないかもしれないけれども、こんな教育していきます、こんな学校ですよということをしっかり伝えていくことが、まちづくりの中での教育の担っている大きな役割だと思っています。私が校長をしている時代にこんなことありました。ここの学校で、こういう取組をしてくれてるんですねと、ホームページで発信してたんですよ。そしたらそれを見ていただいて、移り住んできてくれたんです。やっぱり学校もこういう取組をしてるから、うちに来てくださいという意味のことは、しっかり発信していかなければならない。そういった意味でも、橋本市の新しい学校づくり推進計画の中では、そのあたりをしっかりと示させていただきながら、今言っていた方のような、そんな思いも受けとめつつ、計画にしていければと思っています。すごく大事にしておいていただいたんかなと思って聞かせてもらいました。ありがとうございます。

12. たくさんの貴重な意見を聞かせていただいて、どれもそうだと、うなずきながら聞いていました。やっぱり、紀見ヶ丘に住んでいるものとしては、私が来たときは第一子が3歳でして、元の柱本小学校を見学した上で、ここに引っ越してきたんです。複式学級とかいうのを聞きまして。そしたらあつという間にマンモス化して800人を超えまして、その時にも、毎学期ごとに転入者がいて、先生も対応がもう大変で、その頃は本当に先生が一人一人の名前を覚えることすらできないような状況で、新しく紀見北中学校ができて、今現在こういうことになるとは想像はしてませんでした。なので、全国的に子供が減るっていうのは仕方がない状況ではあるかと思うんです。いいことは、その頃、学校に馴染めなかったり、うまくいかなかったり、先生方自体も対応できなかったりして、大変だった時期でしたが、今はもう、柱本小学校一人一人、校長先生や担任の先生もみんな名前覚えてくださるようで、なんかすごくいい感じでうらやましいんですよ。自分たちの子供が、柱本小学校に行ってたころとは全然違うと、落ち着いた感じでね。これはもっと減ったら、運営が成り立たないのは確かにそれはわかるんですけど、でもその時代と違って、ICT化が進んでるじゃないですか。学校の修学旅行も即時ホームページで連絡してくださるじゃないです

か。そういう何か、コロナからこっちな、すごく進んじゃってるので、いろんな方法を使って、できるだけ柱本小学校を残していただくっていう方法は探ってもらえないでしょうか。それを探りつつ、もうその4年先とかそんなではなく、子供は、たとえ1学年が7人になっても、6学年では42人ですから、それくらいでだったら運動会で今までどおりにはできなかったとしても、親もおばあちゃんも地元みんな参加しての運動会を、かつてできていたのを知ってるので、何かそういう形にすれば、柱本小学校の何か独自性というか、それを発信すれば、こんな学校に行きたいと思われる若い方が増えるような気もしないわけではないです。なので、2学級あって6学年あって、12学級あれば、先生たちの人数もそこそこ運営にはいいかもしれないですし、中学校だって今、クラブも先生少ないために、たくさんできないじゃないですか。それは不都合かもしれないですけど、野球やサッカーや特別のところに行きたい子は、そこ行って、残った子は、今あるクラブで結構楽しめてる子もいるので、それはそれでちっちゃな規模なら規模で仕方ないと思うんですね、全国的にそういうふうになってると思うんで。ただ、その公立の学校は、特に小中は地元があってこそ、その、地元根づいてこそその学校だと思うので、やっぱり子供が自宅から歩いて通える範囲に、できればそういう学校が存続して欲しいなと思うんです。ですから、バスでいけば、国道がとか、いろいろ言いますけど、朝起きて、今日暑いのか寒いのか、雪が降ってるのか、気温が高いのか低いのか、朝の空気を感じながら、自分の足で歩いていけるところに学校があるのが、一番その子の成長にとって大事なことなんじゃないでしょうか。私はそういうことを思ってここに子供を連れてきたんですけど、結局はこんな田舎じゃちょっと好きな映画見れないわとか、仕事がないわとか言って、3人とも出ていきましたけど、今の紀見ヶ丘で私の子供の世代の方が、ニューファミリーが帰ってきてる方を結構見かけるんです。そうすると、私の世代の爺婆は、子育ての、たまの助っ人という、熱出して学校いけないよ、学童受けられないよ、でもママは仕事行かなきゃいけないし、フルでもう仕事だからどうしようというときに手助けできてる家庭がちょっとずつ増えてるんですね。そうするとやっぱり、暮らしやすい地域というのは役に立ってるんです、紀見ヶ丘ね。そういう意味で若い人は、ちょっと値段が下がって私たちは困ってるんですけど、若い家庭、ファミリーは買いやすいと。これをもうちょっと、やっぱり、4年先5年先じゃ、まだ成果が出ないような気がするんです。どうですかね、入学してくる1年生が7人とか5人やったら、もう学校駄目なんですかね。なんかそれをちょっと持ちこたえられるような方法を教育委員会さんの方でも、国語教えるなり、算数教えるなり、英語も入ってきて大変だと思うんですけど、新しくなってそのタブレットを使ったり、リモートで違う小学校との交流をするとか、いろんな方法使って小規模の小学校同士でも交流はできると思うんですね。そうすると海外ともできると思うんですよ。そしたら、幾ら小さな学校だったとしても、何か、運営はもっと楽になるかもしれないと思うんで、2クラスあれば一番いい規模は今まではそうだったかもしれないけど、これからそれでそうやって全部潰していつちゃってたら、橋本市のどこだけ通える小学校が残るんですかね。だから、多分、和歌山市はたくさん人口は集まって

るかもしれませんが、でも団地ができてるところは、どんどん増えてるところあるんですね。うちのときの増えたときはそうだったじゃないですか。でも、必ず減るんですよ。その時に、それを減った形で、しかも、地元の学校として維持していく方法をこれから模索するというのも大事な方法ではないですか。だから減ったんだったら減ったなりに、地域が寂れていかないと。多分、学校なくなったら紀見ヶ丘は存続しにくいと思うんです。そうすると、どうやって町を残していくような計画を立てていくのか、私はちょっとわからないんですけど、もうしばらく、何か残してもらえたら、また何か違う方法がいろんな見方で出てきたりはしないかなとちょっと私は思ったりはします。バスだとフルのお母さん難しいと思うんですね。朝早くここね、町から遠いので、7時とか出ないといけないので、バスに7時乗せて通える地域ってちょっと難しいんですよ。だから校門の前でその子たち待たさないといけない現実とかもあったりするから、バスがあれば何とかなるとか、そういう問題でもないような気がします。なので、箱を用意するために統廃合が必要なのか、子供がどうやったらいい教育が受けられる。どうやったら環境的にもいい教育が受けられるかというのも、違う方面から考えてもらうことができないかなと思ったりします。

13. 学校運営協議会の委員もさしてもらっておりまして、紀見北中は素晴らしいです。それだけ報告します。

14. 資料14ページのスクールバスについてちょっとお聞きしたいんですが、最近ちょっと物忘れがひどくなりまして、昨日か今日のニュースで、スクールバスが運行できないという、ニュースをしてました。それは何でできないのかというたら、運転手がいないから運行したくてもできないというニュースでした。この4年後、皆、年4つ上がります。ほとんど70代以上ですわ。そんな中で、運転手の確保できますか。これが1点。もう1点はですね、紀見ヶ丘に立派なこども園できました。何千万か何億かなんか知りませんが、建築費。それで、私の記憶が正しければ境原、紀見、柱本、あの辺の子供が来るって聞いているんですけど、間違ってたらごめんなさいね。そんな中で、幼稚園までの子供は紀見ヶ丘へおいでおいでというといて、小学校になったら出ていけと、これはちょっとおかしいんじゃないですか。

(教育委員会)

ご意見ありがとうございます。まず1点目の運転手確保についてです。やはり、業界は運転手不足で橋本市内も一緒です。ですので、今から、そういうバス事業者さんと事前にお話を行っています。具体的なことはまだ申し上げられませんが、やはりこういった再編と同時に、通学支援の方も併行して進めていくということが大事ですので、打ち出す以上は、例えばバス会社さんと事前に協議をして、通学支援が実現できるように働きかけを併行して行っていく予定です。2点目のこども園についてなんですけど、もうおっしゃるとおりお気持

ちはわかります。紀見こども園は、元の柱本幼稚園、それから境原幼稚園、紀見幼稚園、そして紀見保育園の4園を廃園し、こども園化で新しく設けるんですけど、4月にオープンします。その中で、この再編をこのタイミングで出してしまうと、片方で作って片方でというふうに、ちょっとイメージを持たれるかもしれないんですけど、この紀見北中学校区としてですね、柱本小学校と三石小学校だけでなく、たんぼぼ園、それから紀見北中学校という、子供たちを育てていくこの紀見北中の共育コミュニティというプランも教育委員会として持ってるんです。確かにハード的には相当の資金を出して、未就学の子に来てもらうんですけど、決して、隣で、はいサヨナラみたいな考え方はありませんので、そういった幼小の連携とはちょっと離れますけども、この中学校単位で考えていきたいと思います。

15. 皆さんいろんな意見が出たと思うんですけど、教育長さんがさっき言われた非認知能力という言葉があったんですけど、認知能力は、学校教育とかIQの問題だし、非認知能力は学校では体験できないこと、文化体験、自然体験、それから社会体験、この3つがあると思うんですけどね。やっぱりそこがちょっとヒントかなと思ってて、子供が少なくなつて、やっぱ統合しないと駄目だと思います。子供も多様化の中で、いろんな意見を交換しながら、子供ってやっぱり認知能力の中で伸びていくんで。やっぱりこの紀見地区に関しては、皆さんがきつと子育てした中でおっしゃってるのは、非認知能力の部分がかなり占めてると思うんですね。やっぱりそこが、ここの地区の教育では一番重要なところと思ってて、その部分をやっぱり学校もちょっと進めていただいたらいい教育にはなるのかなっていうような気はします。だから文化だったら絵画鑑賞、音楽、自然やったらキャンプがあり、川遊びがあり、社会体験は企業体験ですけど、それが橋本にどのぐらいあるか、地方でもいいと思うんですけどね。やっぱりその辺が、新しい教育の内容に入ってくと、口伝えで、その教育に関しては、魅力ある部分も出てくるかなあと。引っ越してくる世代もちょっといるのかなというような希望がちょっと持てるかなあと。昔話ばかりだと、時代がちょっと違いますんで、スピードがやっぱり残ってるんで、やっぱりその残るためにも、ちょっと新しい考え方も僕は必要かなとはちょっと思います。

(教育長)

ありがとうございます。今言っていたいた非認知能力は、やっぱり集団の中でないと獲得しにくい研究結果なんかも出されてあります。やっぱりこう少ない個別の中では、なかなか育ちにくい部分、いろんな人と関わる中で育つ、いろんなものに出会う、人に出会う、事に出会う、そこをどう創り出していくかがすごく重要なポイントで、橋本市はそこを、先ほど部長の話にもありましたが、共育コミュニティ、中学校区単位で取り組んでいる活動があります。足かけ18年ほど取り組んできてるんですけども、地域の人たちが学校に入って、子供たちの学びをしっかり支えてくれる、子供たちの学びをサポートしてくれる。その中で、子供たちが学校の先生とだけの学びではなく、新たな視点で社会参画していく、そんな活動を取り入れているところです。これは、ここの地域だったら紀見北中学校区で同

じような思いを持って、年に何回かやってくれてることもあります。それぞれの学校でやることもあります。これはすべての橋本市内の5つの中学校区で取り組んでることです。本当に大事な部分です。何でそういうことを大事にしていかなければならないかを一昨日ですか、いきいき学園というところが、いわゆる昔の言い方すると、老人大学というものなんですけれども、そういう話をさせてもらいました。今、なぜ、そういうふうにして教育は変わっていかなければならないのかという辺りも含めて、すごく大事な視点で、そこは私もこの学校再編あるなしにかかわらず、しっかり取り組んでいきたいと思っているところです。

16. 出生率で、転入が0歳から9歳まで増えている。それで出生率で計算のだと減っているけど、その減っているデータしか載せてくれてないじゃないですか。過去はどんだけ増えているのかというデータも、どんだけ間違っていたのかというのを、今後入れて欲しいのがあります。この意見、みんな言ったのを見れるようになってるのか。ただ単に統廃合決定ですという感じになるのか。スクールバスなんですけど、子供が小学校に行けるだけで、保護者はもう安心していると思うんですけど、低学年の子の保護者は連れて行くと思うんですけど、高学年の子でも、その乗り合いのスクールバスに乗れなかったときとかはどうするのか。子供って時間を結構守れないと思うんですよ。そこは待ってくれるんですか。バス会社に連絡できるようになってるのかどうか。今、子供に携帯に持たせないという感じになってますよね。学校では、そういうのを持たせるのか。この統廃合が決まったとして、前回も言わせてもらったんですけど、紀見北中学校もなくなると思うんですよ。人数が減るんで、これ以降。だから、柱本小を無くして欲しくない、三石小も無くしたくない。ゆくゆくは中学も無くなって、小学校しか残らないというふうになるんで、紀見東中学校だけになってしまう。そうなったら、元も子もないんで、もう少し考えてもらいたいと思います。

(教育委員会)

ありがとうございます。まず1点目の出生率のそこなんですけども、これは推計を基にしていますので、その時々で変わっていく形になります。その時は合ってるとか間違ってるかというのはちょっと難しいところがあるかと思います。次に、いただいたご意見なんですけども、冒頭で申し上げましたように、ホームページの方で掲載させていただきますので、どこかの説明会についてもご覧いただけるような形になります。スクールバスなんですけども、確かスクールバスは定時の運行という形をとりますので、乗り遅れた場合には、バスが待つということのはちょっと難しいかなと思います。その時に、どういった形をとっていくか、ちょっと、これから検討になるんですけども、どういった形がとれていくか、地域の見守りとかも含めて考えていきたいと思います。紀見北中学校のことなんですけど、先ほども部長が申しましたように、今後の人口の推移を見ながら、考えていくような形になるかと思います。今の時点では、申し上げられない状況です。

17. 今までお聞きして、もう2時間過ぎて大体意見出たと思うんですけど、結論的に言いますと、柱本小学校だけ、どうも併合という作業が気になるんですけどね。この辺の皆さんの意見の大半としては、最低でも5年ぐらいは延期して、その間に北部団地で、市報にも載ってましたけど流入が続くと景気の良い話を見ましたけど、ああいうことから新しい家族も来るでしょうとか、新トンネルで河内長野方面から来るとか、そういうようなことも期待して、今までの減少の数値は統計には入ってないでしょうけどね。そういうことも期待値を含めて、たまたま光陽台も紀見ヶ丘もそう、ちょうど入れ替えの時期だと。私も78になって、子供が出て行って、そういう様な家が増えてきてると。私のすぐ隣も空きましたわ。18軒の班の中で4軒ほど空いて、だから、入れ替わりの時期を迎えてると思うんですよ。だから入り出したら、家売っていますからね。空き家そのままってわけじゃないから、非常に残念ながら、その何というか手ごろになってますし、いずれは変わります。そういうことを入れたら、いざ入るときにどなたさんかもおっしゃってましたね。入ってくることを勘案すれば、もう少し時間的余裕、我慢のしどころかなと。それから、ここで廃校してしまえば、小学校1校から中学校へ続く、これはどう誰が考えても、早晚廃校になっちゃうでしょうと。そうすると、引っ越してきた昭和63年を見ますと、業者の説明では中学校紀見北が開設されると、しかし遅れに遅れて、結局1年延びた。長男は紀見東中学に集団登校で通いました。まあ、毎日泣いてましてね。吹田から来たから、なんちゅうとこやと思って。お墓の横を通って城山台へ上がるんですけど、今日は蛇が3匹だ4匹だと、それで構ってると遅刻したとかね。吹田へ帰りたい帰りたいと言ってました。1年でしたんで何とか収まって、今度は地元の橋本高校にお世話になってね。橋本市に恩義があるわけですけど、ちょっとそれはまた次の子に味合わせるのは酷じゃないかと。だから、ぜひその辺は考えて、あそこだけ、なんかやんなくちやいかんのだというふうに皆さん思ってたっしょって、この資料に載せてくれてんじゃないかなと、そんないわゆる延長ぐらいのことなんて考えてもいいんじゃないかなと、本音で思いますよ。

18. 36年おります。ほんとに開拓地の頃からおります。橋本が好きで来たんです。空気もいいし、子供たちも伸び伸びとしてね。しかし、出て行きました。それで、教育委員会に行かせてもらった時に、子供がたくさん寄って、そこで切磋琢磨に勉強したらいいと言われてましたけど、子供じゃないでしょ。子供がどう思ってるか、今の柱本小学校でずっと先輩後輩、そういう絆があるんです。それはパチンと、集団でグループでやっても、本当に消極的な子は発言しないんです。積極的だから、これだけ発言するんです。そういう世の中なんです。今もそうでしょ、これだけいたって発言するのは何人かでしょ。そういう世の中なんです。だから、私に言いましたね。そういうことがいいんですって。だから、そうじゃなくて、子供は1年生に上がります、2年生、3年生ずっと先輩、後輩、先生とのきずなで持ってるんです。子供が少なくなったっていうのは大人の考え方。境原に住んでいる方に聞いたんです。その時に子供が発言したらいいんです。残していてくれ。子供の気持ちなんです。そ

ういう気持ちを教育委員会の方は、もうちょっと考えてあげてください。小学校1年生の子供が路線バスで危ないですよ。滑ったり。そのお母さん、仕事へ行ってもヒヤヒヤして辞めますよ。子供の命なんですから。そういうことを子供育てたら、ちょっと感じませんか。私のところはもう子供も孫も大きいです。でも紀見ヶ丘に36年おるんです。もの凄く愛してるんです紀見ヶ丘。橋本も愛してるんです。もうちょっと考えてください。今、紀見ヶ丘の方何人おられます。夜の7時に、子育ての人が来れないんですよ。私たちはもう子育て終わりましたから車で来ました。だからもうちょっと寒いとか暑いとかじゃないです。体育館でも集会所でもあるんです。もうちょっと考えてください。時間と曜日。それでちょっとお願いできますか。今ずっと話聞いてたら、もう柱本小学校は終わりみたいに感じたんです。じゃないですよ。話し合いですよね。それだけ聞かせてください。

(教育委員会)

ご意見ありがとうございます。確かに今は話し合いの場、意見交換の場です。説明の中で、柱本小学校のいいところと、三石小学校のいいところを併せ持って、新しい学校を作りたいというお話をさせてもらっているんです。当然、場所は片方が変わりますけども、やはりそういった良いところ、子供たちの学習環境を1つの規模というふうにテーマを絞って、お話しさせてもらっているんで、スパンという考え方はございません。一定の目標時期はお示しさせてもらってますけども、皆様の意見をお聞きしています。一緒に考えさせてもらったらありがたいです。

19. 柱本小学校の場所を残していただくことが、私たちは大事なんです。それは、私たちの世代の勝手なのかもしれません。でも、紀見ヶ丘に息子たちが来て、来てもらってというか、やっぱり責任感じるんですよ。3人いますんで、11年に一番下のが1年です。凄く困ってます。まちづくりとの関連についてで、3つの重点プロジェクト書いていただきますけれども、これはいつから始めたんでしょうか。今から始めるんでしょうか。これが実を結ぶのを待っていただけないんでしょうか。これを実際に、橋本市がプロジェクト推進してるとは思えないんです。橋本市で子育てしていく上で、良いところはないとはっきり言ってます。そのあたりを苦しいんでしょうけど、若い世代に、子育てする支援をもっとできないのかなと。それが実を結ぶのもうしばらく。もう11年と決めてしまったら、本当に引っ越してくる人がいない。だから、決めてしまわないでいただけないでしょうか。延ばしていただけないでしょうか。もうちょっと、待っていただけないですかね、この3つの重点プロジェクトをもっとしていただいて、橋本市に若い世代が来てくれること。教育委員会の人たちの言うことはわかるし、その学校は再編統合の学校というのも必要だと思います。だけど、柱本小については場所を考えて、本当に若い世代が移りやすい街だと思うんです。これから代替わりをしていくところでもあることを考えていただいて、もう少し延ばしていただけないでしょうか。その返事とか、教育委員会の方なので、お返事はできないんでしょうけれども、持ち帰って考えていただきたいと思います。お願いします。

(教育委員会)

ありがとうございます。今日お聞かせいただいたことは全て振り返ります。ここで、ご意見いただいて、そうしますとは言いません。今日このお話をさせてもらうのも、教育委員会の中でも議論して、同席の教育委員とともに考えてきたこととお話させてもらってるんです。確かに、去年お話させていただいた内容を一部変更して、こう変えたいという形でお話しさせてもらってるんです。目指すべきものは、しっかり教育委員会として持っておきたいので、そういったところは見失わずに考えさせてもらいたいと思います。

20. 皆さんの意見を聞かせてもらって、本当になるほどそうだなと思っているんですけども、それに対する教育委員会の返答を聞いてみたら、もうやっぱりありきみたいにか聞こえないんです。私のとらえ方が悪いのかもしれませんが。例えば、バス1つにとっても、今から業者さんと言ってますが、そういうのはちゃんと決めてから話して欲しい。特に1年生からバスに乗る。先ほどもおっしゃってましたけども、乗り遅れたらとか、こんな小さい子をととか、いろいろありますよね。そこのところの検討ひとつにしても、何か納得するようなお答えいただけなかったですし、このレジュメも美しくまとめられてますけども、何かプレゼンとしては具体例がなく、無いなりに補足していただけたらもっと皆さんの意見も違うと思うんです。例えば10ページの、全ての小・中学校をより良い学校っていうのでも、具体的にはどんなのとかね。例えば、その教職員にとって働きたくなる学校とかありますけども、今はどんなことをしているのかなというのはわからないですし、まあブラックですよ。学校の先生のなり手がなくて、よその市町村は住むところを用意しましたとか、何か補助出しますとか、いろいろやっていると思うんですけども、橋本市はどういうことされてるんでしょうか。市長が、教員の数も足りないと、この間の市長との懇談会のときにおっしゃってて、先生が来ないんですと、教育委員会の方が言ってるという返事だったんです。そこのところを具体的に、どういう活動をして教職員を呼び込むのかも聞きたいですし、結局この子供の減少の数字見ても、そちらの方がおっしゃってたように、柱本小学校なくします。次、三石小学校もなくなるんだな。結局は紀見北中学もなくなるだろうなというしか受け取れないんです。子供が少なくなったら、きちんと学べないということは。ですから、無くさないような努力をしますとかも聞きたかったんです。例えばこども園できますよね。柱本小学校は、市内で唯一エレベーターのある小学校だと思うんです。そしたら、市長もおっしゃってましたけども、子供の数は減ってるけど、支援学級の子供が増えてるんです。多様性の時代ですから、両方の子が安心して学べるような、そういう小学校を作っていきましょうとか、そういうやっぱり意見とかも出なかったんでしょうか。若いファミリーを増やすという一応目標持ってらっしゃるみたいですが、やっぱり、子供が歩いて行ける小学校がないところに、皆さんもおっしゃってましたけども、若いファミリーは来ません。私たちの子供の世代でも、こっち帰ってこようか、紀見ヶ丘に帰ってこようかなと言ってる方たちもおったんですけども、皆さん、小学校なくなるみたい

だから、そしたらもうやめようかなと、こういうことになってます。これは柱本小だけじゃなくて、4つの学校が統合になっていますよね、市内で。だから、あちこちでこれは起こってると思います。もはや起こっている。私たちは一応、柱本小学校の件で来てますけども、ここだけの問題ではなく、起こってると思うんです。戻ってこようかなと思っても歩いていけない。今時、何があるかわからないですから。バスと言っても、今から業者と言っても、私も生まれたところは和歌山県ですけども、橋本市よりも人口が半分以下なんですよ。それでも小学校残はしてます。複式だろうがなんだろうが。その代わり、悲しいかな中学校が1つになってしまったんです。部活動するのはやっぱり人数がいるからっていう。そういうのもあって、地元のバス業者がバス出してるんです。ただ、やっぱりバス運転手が足りなく、子供の送迎の時間帯、地元住民の乗るバスの本数が減ってるんです。だから、子供のために、私らのバス減らされて文句言う。そういう方たちも出てきてます。それと、私の同級生がその中学校で働いてるんですけども、不登校が増えてる。やっぱり、バスに乗り遅れて親が送っていかたらいいけれども、中学生ですよ。自転車で行けよという話もありますけども、もうそんなこともあって、何ていうか、安易にバスだけ出したらええというふうになんか、ちょっと聞き取れなかったんで、もっと検討していただきたいと思います。そして、複式学級の何が駄目なのというのはあります。それもありますし、何かこう、とにかく統合ありき、無くすありきでしか聞こえなかったもので、今日ずっと、お聞かせいただいたら、そのところをもう1回、具体的に返答していただきたいと思います。

(教育委員会)

ご意見ありがとうございます。統合ありきに聞こえるところですが、私たちも受け答えに否めないところがあったこと、お詫び申し上げます。やはり、一定の方針を教育委員会として示さないと議論が進まない。でも、それ以上のことを言えないんで、バス事業者さんのことも4年後のことは、今ここで、できる状態になってないんで目指す形で申し上げました。ですから、今日、皆様方からいろんなご意見をいただいて、私たちも全て振り返りさせていただきます。保護者さんの意見、地域の方の意見。それぞれの地域のお話を聞かせてもらって、まだ計画には至ってないんですけども、議論は進めていきます。でも、今日はこういった形でたくさんのご意見いただいた中で、紀見ヶ丘のこととか柱本小学校のことを思っていただけのようなお話を直接聞かせてもらって大変嬉しいです。

(教育長)

教員のお話がありましたので、そのところをお答えさせていただきます。教員というのは、橋本市が独自に市の予算で雇っている方もおるんですけども、任用は和歌山県教育委員会です。子供の数というよりは、学級の数によって、ここの学校は何人の職員を配置しますよということで配置されます。そのあとは、橋本市教育委員会がその職員を管理監督する状況になるんですけども、4月の段階で定数というんですけども、決められた数よりも少なくなっていることはございません。ただ、年度途中で病気になられたとか、赤ちゃんを出産されたということで、補充という形で入ってもらわなアカんともあります。

その時については、上手くいく場合もあれば、やっぱり少し時間が空いてしまう場合もあったりすることはありますが、年度当初の配置については、きちっと配置されているところです。プラスアルファしとして、丁寧に教育を進めて欲しいという思いで、各学校の校長の申請によって要求をしてもらい、それに応えるという形で市の教育委員会が市独自の教員を配置しています。そうやって、県が決めてる人数以外にも、橋本市として、しっかり学校に実践してもらいたいという思いで、そのような政策をとっているところです。探している話は、ずっと探してるんです。やっぱり探しておかないといけないので、そのところはやっぱり困ってるんです、実際は。そしてあと、複式が駄目だという話もありましたが、私たちそんなことを思っていません。現に橋本市内には、複式でしっかりした教育をやってくれてる学校があります。だから、複式を否定するようなつもりは全くございません。そこではしっかり子供たちにつけてあげないといけない力を、その置かれた環境の中で、先生方が精一杯工夫をして実践していただいています。けれども、そういった本当に少なくなってくる中では、限界というのも出てきます。そこはやっぱり、複式の対応だけではなく、再編という対応もしていかなければならないと思っていますところ。

あと1つ、各自治体で置かれてる状況が全然違います。他の学校でこんなこと、他の自治体でこんなことしてるけども、何でもここはしないんだと言われても、学校がすごく離れてるところしかないところを一緒にする。これはできないですね。だからこそ、離れてでも、1つ1つ丁寧に運営してるんです。うちはそういうところは、特に離れていという学校はありません。だから、置かれてる状況が違うので、全てのところを同じような形で見ることはできませんが、いろんなところを見に行ってもらったというお話聞かしてもらいましたが、そういったことも、私たちもしっかり担当が研究しています。これからもそのところは、手抜きなく、いろんなところの情報を見ながら、できる限り子供たちにとって良い形、そして安心をして、保護者の方々が預けていただける環境づくりをしていきたいと思っています。しっかり取り組んでいきたい。またこんな話をするから、決まったような形で聞こえてしまうかもわからんですけれども、私たちは、やっぱり目的を持って、これはいい形だということで提案させてもらっています。けれども、それが一方的なものになったらあかんで、こういう形でご意見聞かしてもらおう場をとっていますので、聞かしてもらった意見の中では、1回目に聞かしてもらった意見で、修正した上で2回目提案している内容もございません。今日の中でも、しっかり受けとめていかなければならないご意見がありますので、そういったところは、先ほど部長の話にもありましたが、しっかり持ち帰って、自分たちでしっかり話し合って、そしてどうしていくんだという辺りは考えていきたいと思っています。

21. 最後に、市長におっしゃっていただきたいんです。議員さんとか。やっぱりこの資金不足は大きいと思うんです。企業誘致をしっかりと、働く場所を作って、人口流入できる。もうそこと思うんです。教育委員会の方も言えませんか。いつも思うんです。トップダウンはわかるんですけど、何かボトムアップが、ここの市は無いんと違うかなと、いつも疑

間に思ってるんでガンガン言って欲しいと思います。

説明会に出席していただいた地域の皆様から意見書に記入いただいた意見、並びに欠席された方から提出いただいた意見の内容です。

2 2. (記入用紙)

統合に関しては、教育の観点のみで、子供の多様性を重視、人数が必要と思います。意見交換の場としましては、年齢が偏りすぎと思います。もう少し幅広い世代も含めた場を次回、考えていただきたいです。少子化により、学校がなくなることは仕方ないと思いますが、思いで話が多い世代では感情論が多くなると堂々めぐりの繰り返しになるので、いろいろな世代も入れてほしいです。

2 3. (記入用紙)

経済効果ありきで、後はそのための理由づけである。市長の方針だと思うが、教育長、現場をよく知っているはず。子供のより良い教育のために統合なしで頑張してほしい。

2 4. (記入用紙)

再編統合はやむを得ないと思う。住民のノスタルジックな感傷は考慮する必要がない、残してほしいのはみんな同じ、どこまでいってもゆずらないと思う。意見としては述べたが、どちらに統合するにせよ、通学を確実に確保してほしい。路線バスと言われたが相手は南海なのでムリ、Door to Door の整備が必要条件、通学路線の完備があるので、ものすごくお金がかかる、結局、統廃合前よりコストが大きい事あり、こんなことなら統廃合やめとけばとならないように。クラスを分ける方がいいが必須ではない。少人数であっても2校に分かれている方が、教師はきめ細やかに見れる。統合してクラスが増えないと、クラスの人数は多いは教師の総数は少ないは現場が大変となる（なっている）。市町村独自で確保するならいいが、ここはどの市町村も国や県の指示した定数だと言って生じた諸問題が、すべて学校教員に丸投げされているのが現状。教育委員会や市に県や国の圧力はかかっていませんか。統廃合は、府や県にとっては人件費が減るとしかみていない人もいるので、教員を確保するためにクラス数を維持したいという現場の気持ちはわかるが、統廃合は最終的にメリットはない。再編したあと、ものすごく伸びた学校の話はきかない、これまで想像していなかった問題が生じています。ぜひ他市町村と情報共有してより良い形を橋本市に導入してください。市教委も含め何年も前から本当にご苦労いただいていると思います。本当にご苦労様です。

2 5. (二次元コード)

2回地域説明会・意見交換会（2月14日）に初めて参加させていただきましたが、教育委員会の教育上観点からの話やスケジュールありきでの適正規模、配置基本方針と住民側の感情論も入ったいずれかの小学校廃校中止の一边倒では議論の接点が全く噛み合わず、多分、

次の機会も同じように堂々巡りで展望が見える事が無いように感じられました。

2029 年統合ありきの前にもっと丁寧に他のアイデアも考える事は出来ないのでしょうか？
色んなアイデアを検討する時間はあると思われます。例えば

1. 最後の生徒が居なくなるまでどちらかを分校として存続させる。全国各地であると思いますが案として無いのか？

2. 低学年区を紀見こども園、岡潔数学体験館がある橋本市柱本小学校に集約。中学年区は耐震化や地盤問題の紀見北中学校を取り壊し売却。三石小学校に将来の生徒数も見据えた新しい紀見北中学校を建てる。

案としてはまだまだ考えればあると思われます。教育委員会も橋本市も知恵があるのなら、近い先の生徒数や親御さんの負担の議論、様々なマーケティングも踏まえ、予算も含めて柔軟にスケジュールありき、書面上の一法的で無く丁寧に検討する事を切に望みます。

26. (二次元コード)

少子高齢化社会なので、学校の統廃合は仕方ないと思います。子育て終了した団塊世代たちの意見は必要ありません。子育て現役世代の方々の意見中心に進めていければ良いかと思います。

27. (二次元コード)

噂話かもしれませんが、学校運営協議会の中で、統合を丸く収めるに三石小学校の名前を変更して、新設校にする事で解決しようとしてると聞いたのですが、どうなのでしょう？もしそれが、本当なら柱本小学校区の住民や意見交換会に参加した方々が、黙って無いと思うのですが、コメント下さい。